

令和2年度 本校の学校評価について

令和3年3月17日

筑前町立東小田小学校

本校は、自校の教育の充実に向け、毎学期末に学校評価を下の手順で実施しています。

皆様にお渡しするこの資料は、下の④【公表】に当たるものです。

皆様へのアンケート調査等で頂いた貴重な回答をまとめましたので、この資料により報告しますとともに、さらなる教育活動の充実に生かして参ります。

〔学校評価の手順〕

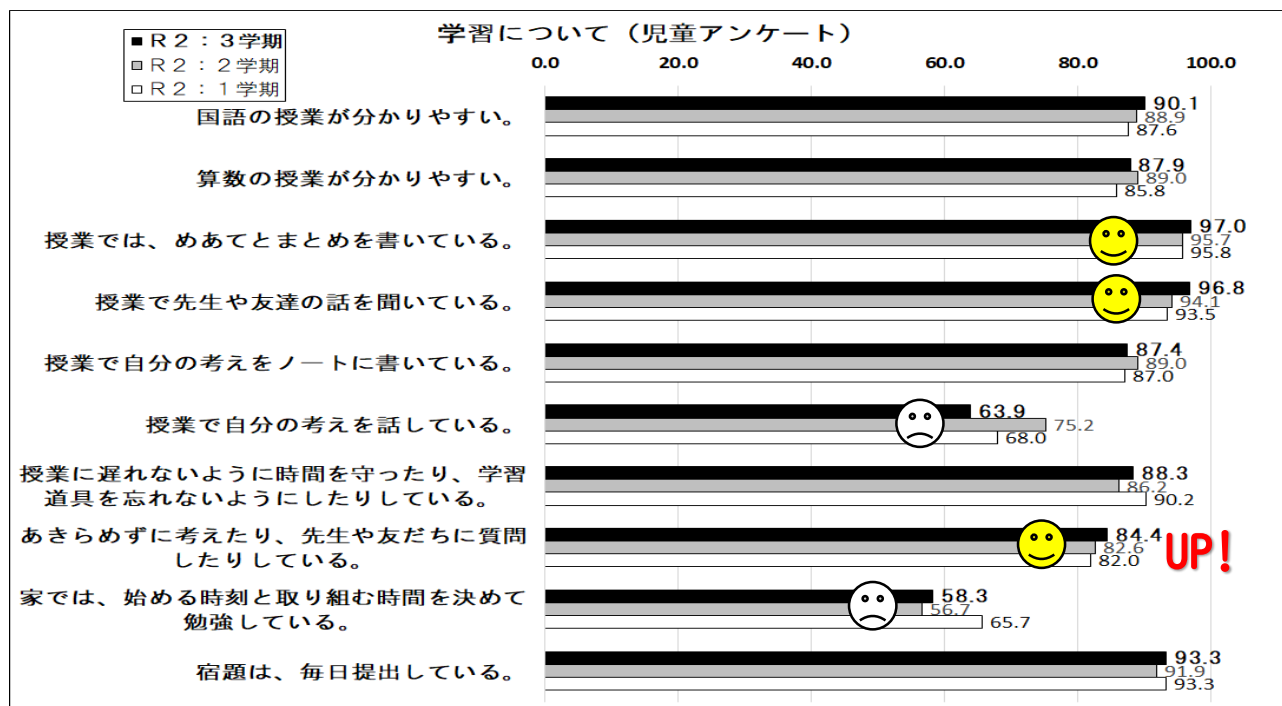
- ①【アンケート】児童・保護者を対象に学校教育に対する声を聴く。
- ②【評価】アンケート結果をもとに成果や課題をまとめる（自己評価）。
- ③【審議】自己評価結果を本校の学校運営協議会に説明し審議を受ける。
- ④【公表】審議を経た自己評価を保護者・地域に公表し、町教委に報告する。
- ⑤【改善】公表した自己評価に従って、学校の教育活動の改善を図る。

グラフ、考察等の見方について

- 棒グラフ及び数値は、質問項目に対する肯定的な回答の割合（「1あてはまらない」「2あまりあてはまらない」「3あてはまる」「4とてもよくあてはまる」のうち3又は4を選択した児童等の割合）を表しています。最大を100とします。
- 棒グラフは、各項目で学期ごとに比較できるように、下から1学期・2学期・3学期の順に載せています。考察の◎は成果、●は課題と考えられることを記載しています。

1 児童アンケートから

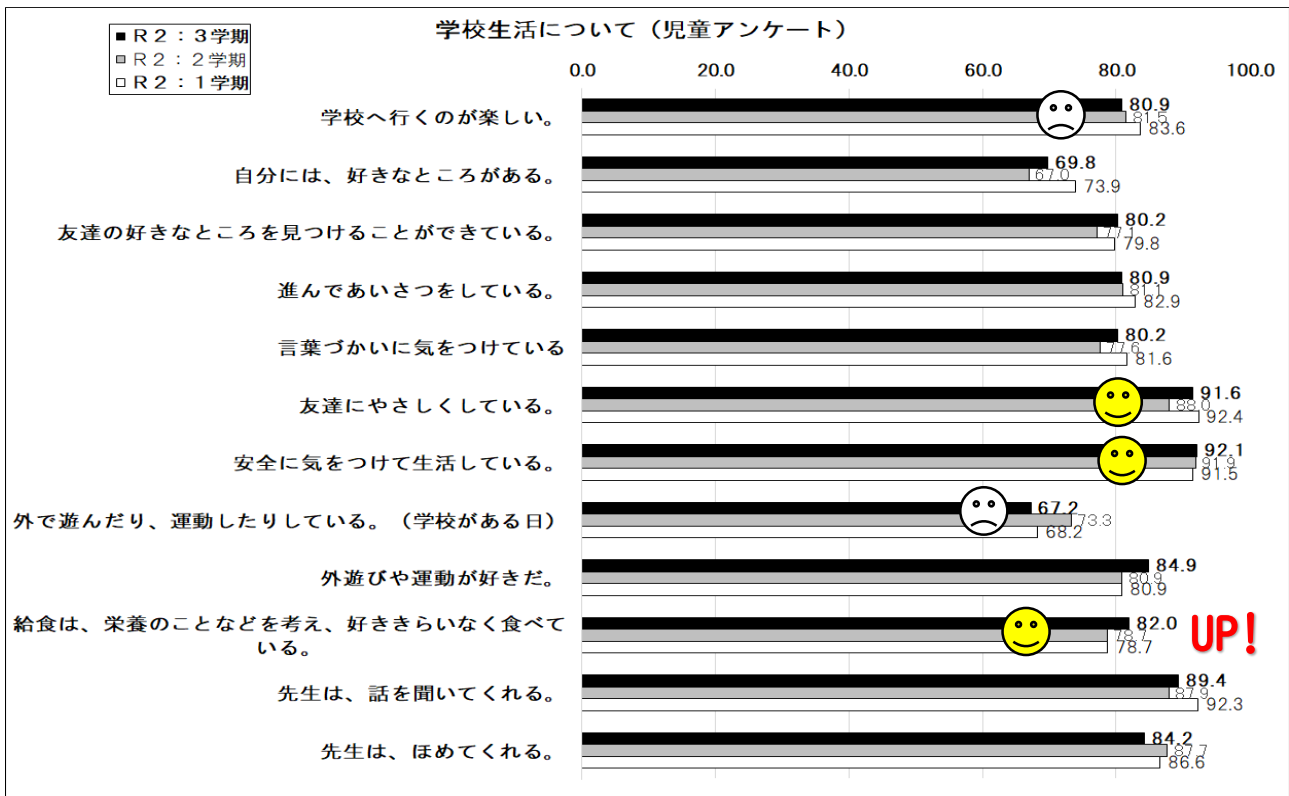
(1) 学習について



日常の授業や家庭学習についての回答は、特に次のような状況が見られました。

- ◎国語・算数とも9割ほどの児童が「分かりやすい」と回答し、「国語の授業が分かりやすい」と回答する児童の割合が次第に増加しました。
- ◎授業で「めあて・まとめ」「話を聞く」等の構えに関する自己評価の高い児童の割合は多い状況です。多くの児童が授業にきちんと向き合っていると捉えます。
- ◎「あきらめずに考えたり質問したり」は自立した学習者の態度であり、この自己評価が少しずつ伸びているのは大変嬉しい傾向です。今後もその姿を認め励まし自信を育みたいと思います。
- 授業で「自分の考えを話している」については自己評価が低く、3学期は2学期から下降しています。3学期は学習のまとめのドリル・習熟活動等が増えた分、対話や交流の機会が少なくなっていたことも反映したのではないかと捉えます。
- 「家庭学習を始める時刻、取り組む時間を決めて勉強」については依然6割を割っています。生活の自立に向け、家庭学習も習慣化から計画性へ家庭と連携し取組を進めたいところです。

(2) 学校生活について

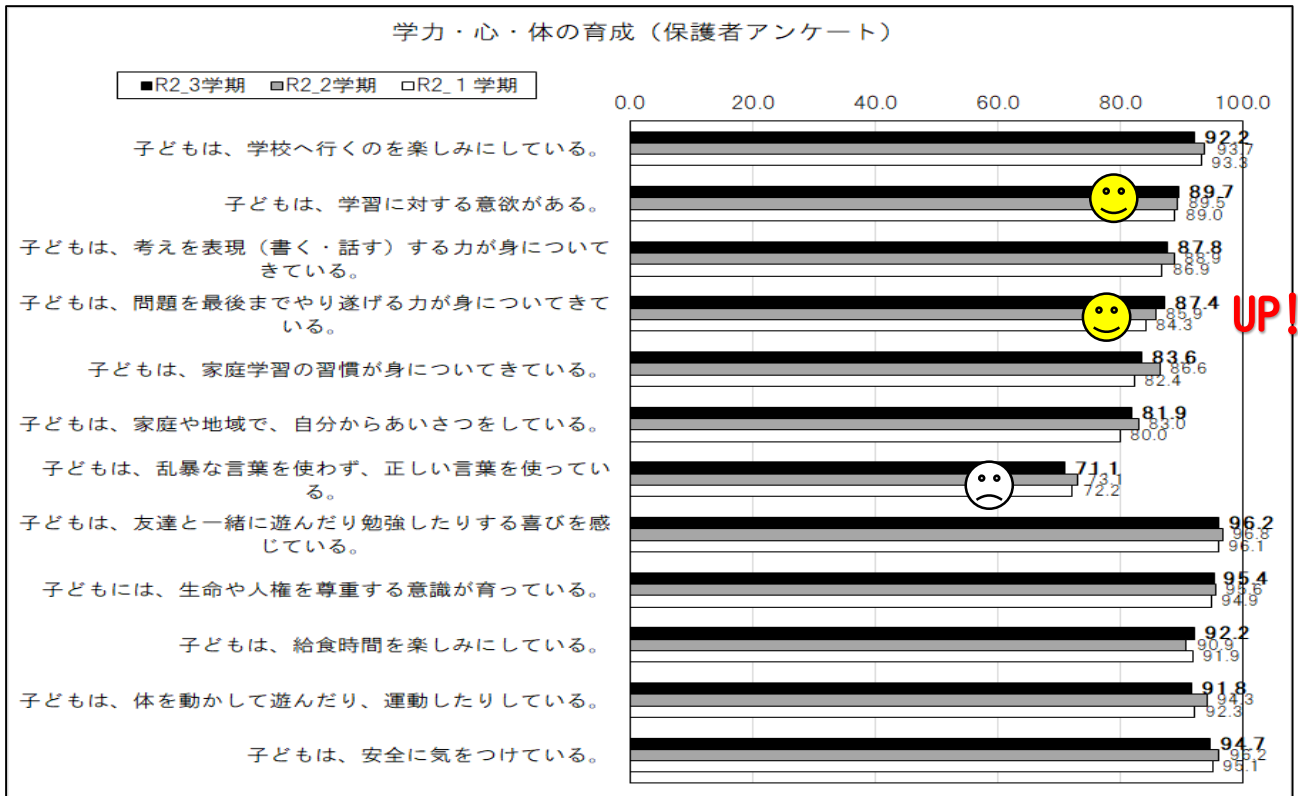


学校生活についての回答は、2学期から上昇した項目が多く見られました。

- ◎「友達にやさしく」「安全に気を付けて」の自己評価は高い割合です。よりよい人間関係づくりや、コロナ感染防止をしっかりと意識して生活しているようです。
- ◎「給食は栄養等を考え好き嫌いなく」の自己評価がぐんと伸びています。2学期以降、栄養教諭を中核においた残食対策の効果があったようです。
- 「外で遊んだり運動したり」の自己評価は大きく下降。「外遊びや運動が好き」という子は8割を超えることから、今後も外遊び・運動を奨励を進めていきたいと思います。
- 「学校へ行くのが楽しい」は下降傾向でした。コロナ禍で授業も遊びも制限が多く、力を十分に発揮できなかった環境の影響は大きいと思います。今後、行事等を工夫し実行していきます。

2 保護者アンケートから

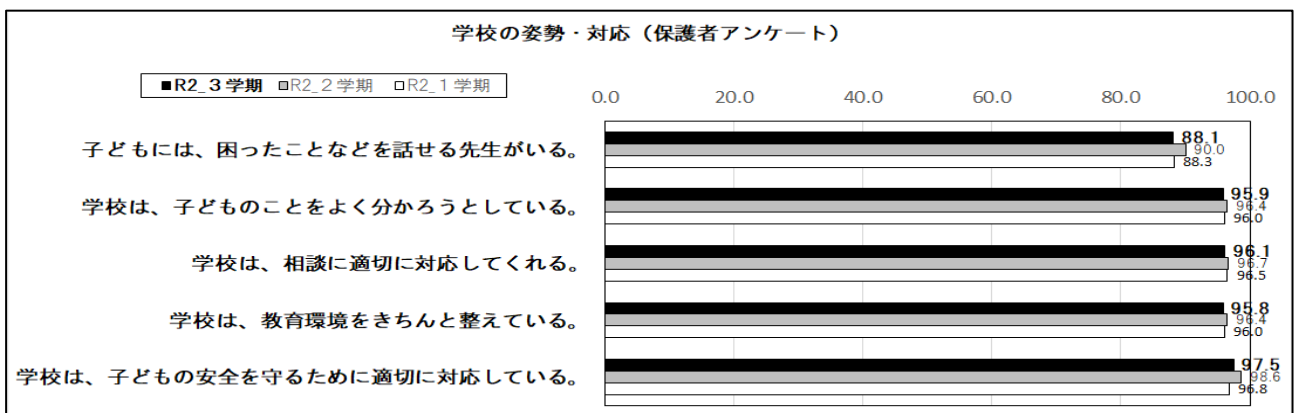
(1) 学力・心・体の育成について



保護者の見た児童の学力・心・体の育成に関する評価は全体的に2学期とほぼ同様でした。

- ◎ 「学習に対する意欲」「問題を最後までやり遂げる力」は学期ごとに割合が増加。検定試験等、2～3学期と学年に応じた学力育成の取組が子どもの学ぶ意欲を掻き立てていると感じます。
- ◎ 「子どもは学校へ行くのを楽しみにしている」「友だちと一緒に遊んだり勉強したり」等については高い割合を示しています。児童が生き生きと学び遊ぶ学校づくりに努力して参ります。
- 「正しい言葉遣い」は他の項目に比べ依然伸びづらい傾向です。次年度は、具体的に正しい言葉遣いの中身を共通理解してその取り組み成果を見てみたいと考えております。

(2) 学校の姿勢・対応について（長子のみ調査）



- ◎ 「子どもの安全」「子ども理解」「困ったことの相談」「教育環境の整備」等、いずれも95%を超える高い評価です。「子どもには、困ったこと話を話せる先生がいる」に関しても、今後も傾聴と受容・共感を基本姿勢にかかわっていきたいと思います。

3 学校運営協議会における審議から

上記のような調査結果をもとに、学校運営協議会（石井保幸会長、12名）において協議いただき、学校への提言として以下のとおりまとめられました。（○意見 ●改善意見 ◎成果）

（1）確かな学力の育成

●家庭学習は、計画性向上を通じて習慣化を促進するという意味で、「習慣化」から「計画性」にシフトし、取組を一步前に進めてはどうか。

（2）豊かな心の育成

●正しい言葉遣いに関する自己評価が児童、保護者とも低い状況にある。言葉遣いといっても児童、保護者、教職員それぞれの立場によってとらえが異なる。3者それぞれの取組を一つ二つに具体的に絞って実践し、それを評価してみてもどうか。

（3）健やかな体の育成

○体力向上の観点から、休日に校庭で遊ぶことを推奨して欲しい。野球の練習が行われているときは、運動場北側の空きスペースを遊び場として有効活動してはどうか。

（4）特別支援教育

○我が子の発達等に関して不安を持つ保護者がより安心して相談できる体制をさらに充実して欲しい（スクールカウンセラーの配置に関して）。

（5）信頼される学校づくり

◎コロナ禍で自分の力を発揮しにくい状況が子ども達に様々な影響を及ぼしたと思うが、学校には児童の安全を第一に本当によく頑張ってもらった。

○学校行事や学習参観は子どもが「学校へ行きたい」と思う要因ともなるから、今後も工夫し実施して欲しい。

（6）学校の管理運営

◎学校運営に関し、組織内の部会のチーフ等に、若い教職員の出番があり、人材育成が着実に進んでいる。

4 まとめ

保護者の皆様には、お忙しい中にアンケートにご協力頂き誠にありがとうございました。

本年度は、3月からの3か月の臨時休校措置、その後の感染症対策等により、児童は体験学習や交流活動、運動・遊び等にも様々な制限があり、自分の力を発揮し自分自身の成長や充実感を味わう機会が限られてしまった1年でした。そうした中でも、家庭や地域の方々の見守りやご支援に助けられ、学校は何とかできる限りの教育を実践して参りました。

この難局での経験と皆様からのご意見を大いに生かし、児童が「学校に行くのが楽しい」と感じながら、健やかに成長していくことができるよう皆様と共に励んで参ります。

なお、本資料についてはホームページでも公表し、課題解決に努力して参ります。今後も学力調査結果等、皆様にできる限り情報提供して参りたいと思います。